

目標指標の評価（令和 7 年度）

目標指標		目標指標 の方向性	基準とする数値 （現況値）	実施時期	データ取得の 主体等	実績数値【参考】 R6年度（2024年度）	実績数値 R7年度（2025年度）	基準値との比較 （実績数値－現況値）	状況	目標値 R10年度（2028年度）
基本方針 1	指標 1 主要公共交通の年間利用者数	➡	18,248,777人/年 R4年度（2022年度）	毎年度	交通事業者	19,645,891人/年	20,195,495人/年	1,946,718人/年	向上	20,581,000人/年
	市内鉄道駅の乗降者数	➡	17,726,590人/年 R4年度（2022年度）	毎年度	交通事業者	19,080,928人/年	19,629,784人/年	1,903,194人/年	向上	19,970,000人/年
	市内を運行する路線バスの利用者数	➡	214,985人/年 R4年度（2022年度）	毎年度	交通事業者 東海市	272,762人/年	270,690人/年	55,705人/年	向上	233,000人/年
	循環バス（らんらんバス）の利用者数	➡	307,202人/年 R4年度（2022年度）	毎年度	交通事業者 東海市	292,201人/年	295,021人/年	△12,181人/年	低下	378,000人/年
	指標 2 市内・市外への移動が円滑にできる環境 が整っていると思う人の割合	➡	68.7% R4年度（2022年度）	毎年度	東海市	70.9%	73.3%	4.6ポイント	向上	73.4%
	指標 3 循環バス（らんらんバス）利用者 1 人当 たりの市負担額	➡	445.6円/人 R4年度（2022年度）	毎年度	東海市	688.9円/人	854.5円/人	408.9円/人	悪化	現況値以下
	指標 4 待合環境が整備されたバス停数	➡	10箇所 R5年度（2023年度）	計画期間 最終年度（R10）	東海市					13箇所
基本方針 2	指標 5 新たな交通システムの導入件数	➡	未実施 R5年度（2023年度）	計画期間 中間年度（R8） 最終年度（R10）	東海市					現況値以上
	指標 6 買い物バスの利用者数	➡	5.8人/回 【参考】292人/50回 R4年度（2022年度）	毎年度	東海市	5.8人/回 【参考】722人/124回	5.5人/回 【参考】711人/130回	△0.3人/回	横ばい	現況値以上
基本方針 3	指標 7 バスの乗り方教室や出前講座の参加人数	➡	303人/年 R4年度（2022年度）	毎年度	東海市	390人/年	590人/年	287人/年	向上	393人/年
	指標 8 バスロケーションシステムのアクセス数	➡	約324,000件/年 【参考】27,000件/月 R4年度（2022年度）	毎年度	東海市	184,954件/年 【参考】30,826件/月 ※R6.10.1～運用	288,920件/年 【参考】24,077件/月	△35,080件/年 【参考】△2,923件/月	低下	408,000件/年 【参考】34,000件/月
	指標 9 駅や主要公共施設等へのデジタルサイ ネージ導入箇所数	➡	1箇所 R5年度（2023年度）	計画期間 中間年度（R8） 最終年度（R10）	東海市					3箇所
基本方針 4	指標10 循環バス（らんらんバス）の近隣市町へ の乗り入れ路線数	➡	未実施 R5年度（2023年度）	計画期間 最終年度（R10）	東海市					1路線
	指標11 近隣市町への乗り継ぎが可能なバス停数	➡	15箇所 R5年度（2023年度）	計画期間 最終年度（R10）	東海市					17箇所

＜地域公共交通計画の評価等結果の様式＞

東海市地域公共交通計画の評価等結果（令和 7 年 4 月～令和 8 年 3 月）

目標	目標を達成するための取組	調査方法	達成状況・分析	評価・次年度に向けた課題や取組	備考
主要公共交通の年間利用者数：18,248,777人/年（令和4年度）→20,581,000人/年（令和10年度）	公共交通ネットワークの充実 ・公共交通のサービス向上に向けた交通ネットワークの再構築 ・駅や主要拠点での乗り継ぎ利便性の向上 医療・福祉拠点への移動支援の充実 ・加木屋中ノ池駅を活用した医療・福祉拠点へのアクセシビリティの向上	交通事業者による年間利用者の集計	・20,195,495人/年（令和7年度） ・路線バスの利用者数は減少しているものの、市内鉄道駅の乗降客数及び路線バスの利用者数の増加が上回っているため、利用者数は増加している。	<鉄道> ・太田川駅を始めとした主要駅での乗降者数の増や令和6年3月に開業した加木屋中ノ池駅の開業等により順調に推移している。 <路線バス> ・令和7年6月30日のダイヤ改正で運行回数を減らしたことにより、横須賀線は減少したものの、上野台線は令和5年3月1日のダイヤ改正により利便性が向上し、利用者数が増加していると考えられる。 <循環バス（らんらんバス）> ・ダイヤ・ルート再編後に利用者数が減少しており、徐々に利用者数が回復しているものの、再編前の水準までは回復していない。 ・引き続き、再編後の路線・ダイヤによる運行を継続。 ・各公共交通機関の乗継が図られるように市ホームページにおいて、乗継検索サイトへの案内を掲載。 ・We bチケットの導入により利用者の利便性を向上。 ・バス利用者の拡大に向けた利用促進対策を実施する必要がある。 ・令和8年度秋頃に完成予定の加木屋中ノ池駅の南口駅前広場において、バス停の設置に向けたダイヤ・ルート改正を実施予定。	<循環バス（らんらんバス）> ・令和8年度に一部のルートを改正する予定のため、地域公共交通計画の変更が必要。
市内鉄道駅の乗降者数：17,726,590人/年（令和4年度）→19,970,000人/年（令和10年度）			・19,629,784人/年（令和7年度） ・全体的に増加傾向にあり、特に名鉄太田川駅の乗降者数が196,754人、加木屋中ノ池駅が109,651人増加している。 ・加木屋中ノ池駅は、令和6年3月に北改札口が、令和8年3月に南改札口が開業している。		
市内を運行する路線バスの利用者数：214,985人/年（令和4年度）→233,000人/年（令和10年度）			・270,690人/年（令和7年度） ・上野台線は増加傾向にあるが、横須賀線は減少傾向である。		
循環バス（らんらんバス）の利用者数：307,202人/年（令和4年度）→378,000人/年（令和10年度）		市民アンケート調査により計測	・295,021人/年（令和7年度） ・令和6年10月に実施したダイヤ・ルート改正後に利用者数が減少している。 ・ダイヤ改正後は乗降客数が一時的に減少し、徐々に回復する傾向で、利用者数は徐々に回復しているものの、ダイヤ改正前の水準までは回復していない。		
市内・市外への移動が円滑にできる環境が整っていると思う人の割合：68.7%（令和4年度）→73.4%（令和10年度）			・73.3%（令和7年度） ・大田・横須賀の満足度が高い。 ・16歳～29歳の満足度が高く、50歳～64歳、75歳以上の満足度が低い。		
循環バス（らんらんバス）利用者1人当たりの市負担額：445.6円/人（令和4年度）→現況値以下（令和10年度）			・874.6円/人（令和7年度） ・令和6年10月1日のダイヤ・ルート再編により、車両数の2台増及び運転乗務員の処遇改善に伴う人件費増等から運行経費が増えたこと及び利用者数が減少したことにより1人当たりの運行経費が増加している。		

目標	目標を達成するための取組	調査方法	達成状況・分析	評価・次年度に向けた課題や取組	備考
待合環境が整備されたバス停数：10箇所（令和5年度）→13箇所（令和10年度）	待合環境等の整備 ・上屋、ベンチ等の整備により、快適にできる環境の促進 駅前広場等の整備 ・加木屋中ノ池駅、南加木屋駅、尾張横須賀駅等の駅前広場整備によるアクセス性の向上	シェルター（上屋）やベンチ等が設置されたバス停数	—	—	最終年度（令和10年度）に評価を実施
新たな交通システムの導入件数：未実施（令和5年度）→現況値以上（令和10年度）	移動需要に応じた交通サービスの利用促進 ・運転免許証自主返納者へのタクシー利用助成 新たな交通システムの導入 ・A I オンデマンド交通の実証実験等 パーソナルモビリティ等の調査・研究 ・自転車や電動キックボード等のシェアリングサービスに関する調査・研究	実証実験等を含む新たな交通システムの運行数	—	—	中間年度（令和8年）、最終年度（令和10年度）に評価を実施
買い物バスの利用者数：5.8人/回（令和4年度）→現況値以上（令和10年度）	輸送資源を活用した生活支援 ・買い物バス等の利用促進 ・宅配・移動販売等の活用	福祉団体等が実施する買い物バスの年間の利用者数を、運行回数で除して算出	・5.5人/回（令和7年度） ・1回当たりの利用者数は概ね維持されており、利用者数は基準値と比較して増加している。	・利用者数及び運行回数は横ばいとなっている。（292人/50回（令和4年度）→722人/124回（令和6年度）→711人/130回（令和7年度）） ・次年度も引き続き維持・向上に努める。	
バスの乗り方教室や出前講座の参加人数：303人/年（令和4年度）→393人/年（令和10年度）	公共交通教育及び利用促進活動の推進 ・バスの乗り方教室やバスロケーションシステムの使い方講座を実施	バスの乗り方教室及び出前講座の参加人数の集計	・590人（令和7年度） ・バスの乗り方教室の開催校を増加（2校→6校）したことにより参加人数が増加（126人→516人）している。	・バスの乗り方教室の参加人数は順調に伸びている。 ・出前講座の参加人数が減少している。（84人→74人）。 ・次年度も引き続き維持・向上に努める。	
バスロケーションシステムのアクセス数：約324,000件/年（令和4年度）→408,000件/年（令和10年度）	バスロケーションシステムの充実 ・近隣市町のコミュニティバス等にも対応したバスロケーションシステムへの更新	バスロケーションシステムへの年間アクセス数の集計	・288,920件（令和7年度） ・基準値と比較して減少している。	・閲覧件数が減少しているが、導入から期間が経過し利用者が操作に慣れ、スムーズに見たいページにアクセスできるようになったことから、アクセス数が減少したと考える。	

目標	目標を達成するための取組	調査方法	達成状況・分析	評価・次年度に向けた課題や取組	備考
駅や主要公共施設等へのデジタルサイネージ導入箇所数：1箇所（令和5年度）→3箇所（令和10年度）	公共交通のわかりやすい情報提供の在り方についての調査・検討 ・新たなバスマップや時刻表の作成 ・主要施設等へのデジタルサイネージの設置検討 ・バス車内広告のデジタル化	デジタルサイネージが設置された主要公共施設等の数	—	—	中間年度（令和8年）、最終年度（令和10年度）に評価を実施
循環バス（らんらんバス）の近隣市町への乗り入れ路線数：未実施（令和5年度）→1路線（令和10年度）	近隣市町コミュニティバスとの共通バス停の整備 ・近隣市町のコミュニティバスと乗り継ぎ可能なバス停の増設 利便性の高い地域公共交通の実現 ・循環バスと近隣市町のコミュニティバスとの乗り継ぎ時における運賃体系の在り方を調査・検討	近隣市に乗り入れた路線の数	—	—	最終年度（令和10年度）に評価を実施
近隣市町への乗り継ぎが可能なバス停数：15箇所（令和5年度）→17箇所（令和10年度）		近隣市町への乗り継ぎが可能なバス停数	—	—	最終年度（令和10年度）に評価を実施

（記載に当たっての留意事項）

- ・ 本様式中、表題の「（○年○月～○年○月）」の部分には、評価等の対象となる期間を記入してください。
- ・ 毎年度の評価になじまないような目標や、数年おきの評価を予定している目標については、「備考」の欄にその旨を明記の上、「目標」及び「備考」の欄以外は「—」と記載して下さい。
- ・ 一つの目標と複数の取組が対応している場合や、複数の目標と一つの取組が対応している場合には、適宜欄を修正の上、記載を行ってください。
- ・ 月ごとの利用者数の推移等の詳細データや、地域公共交通計画の評価等に係る協議会における議論の結果（議事録等）等の関連資料がある場合には、併せて添付して下さい。
- ・ 地方公共団体・協議会等において独自に作成している評価等の様式が既にある場合や、地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価を行った報告様式がある場合には、参考資料として添付して下さい。

令和 7 年度実施報告及び令和 8 年度実施予定

事業内容	実施主体	事業 期間	実施スケジュール					実施状況	実施予定
			R6	R7	R8	R9	R10	R7	R8
公共交通ネットワークの充実	東海市 交通事業者	中期間						【検討・協議】 加木屋中ノ池駅バス停の新設に向けた検討	【検討・協議】 【実施】 加木屋中ノ池駅バス停の新設 令和8年10月1日ダイヤ・ルート一部改正
医療・福祉拠点への移動支援の充実	東海市 交通事業者	中期間	道路整備等他事業と併せて実施					【検討・協議】 加木屋中ノ池駅バス停の新設に向けた検討	【検討・協議】 【実施】 加木屋中ノ池駅バス停の新設 令和8年10月1日ダイヤ・ルート一部改正
待合環境等の整備	東海市 交通事業者	長期間	民間事業者とも協議を行い実施を検討					【実施】 消防署北出張所（北行き）に上屋・ベンチ設置 6箇所（10基）のバス停にベンチ設置	【実施】 上野中学校前（南行き）及び加木屋中ノ池駅南口に上 屋・ベンチ設置 6箇所（6基）のバス停にベンチ設置
駅前広場等の整備	東海市 交通事業者	長期間	道路整備等他事業と併せて実施					【実施】 加木屋中ノ池駅周辺整備 （南改札口開業、南口駅前広場整備）	【実施】 加木屋中ノ池駅周辺整備 （南口駅前広場整備完了）
移動需要に応じた交通サービスの利用 促進	東海市 交通事業者	長期間						【継続】 運転免許証自主返納者等にタクシー利用助成	【継続】 運転免許証自主返納者等にタクシー利用助成
輸送資源を活用した生活支援	社会福祉団体 小売事業者 物流事業者	長期間						【継続】 買い物支援バスの実施（社会福祉団体）	【継続】 買い物支援バスの実施（社会福祉団体）
新たな交通システム導入の検討	東海市 交通事業者 情報通信事業者	中期間	需要分析に応じて、継続的な実施判断 ※デマンド交通実証実験及び検証					【検討・協議】 デマンド交通（チョイソコとうかい）の実証 実験及び検証	【検討・協議】 デマンド交通（チョイソコとうかい）の実証 実験及び検証
パーソナルモビリティ等の調査・研究	東海市 モビリティサービス 事業者	長期間	先進事例等の調査・研究					【検討・協議】 先進事例の情報収集 Webセミナー受講等	【検討・協議】 先進事例の情報収集 Webセミナー受講等
公共交通教育及び利用促進活動の推進	東海市	長期間						【継続】 バス乗り方教室（6校） 高齢者スマートフォン活用支援講習会（32回） 循環バス（らんらんバス）にWebチケット導入 のりものカード（らんらんバス）の作成	【継続】 バス乗り方教室（6校） 秋まつりに車両展示 循環バス（らんらんバス）Webチケットの継続運用 のりものカード（らんらんバス）の増刷 啓発グッズの作成
バスロケーションシステムの充実	東海市 近隣市町 交通事業者 情報通信事業者	短期間						【継続】 バスロケーションシステムの運用	【継続】 バスロケーションシステムの運用 乗降客数カウントシステムの導入
公共交通のわかりやすい情報提供の在 り方についての調査・検討	東海市 交通事業者	短期間						【実施】 英語版ガイドブックのデータを作成し、ホームページ に登載	【継続】 英語版ガイドブックのデータを作成し、ホームページ に登載
近隣市町コミュニティバスとの共通バ ス停の整備	東海市 近隣市町	短期間	需要分析に応じて、拡充検討					【継続】 知多市、大府市と共通バス停の設置	【継続】 知多市、大府市と共通バス停の設置
利便性の高い地域公共交通の実現	東海市 近隣市町	長期間	運用事例等の調査・研究					【検討・協議】 知多市、大府市と情報交換	【検討・協議】 知多市、大府市及び東浦町と情報交換

短期間

1～3年程度

中期間

4～5年程度

長期間

4～5年程度

→

検討・協議

→

→

令和 7 年度（2025 年度）実施事業の状況

基本方針 1

公共交通機関が調和した使いやすい交通体系の確保・維持

施策：公共交通ネットワークの充実

・実施事業

駅や主要駅での乗り継ぎ利便性向上

・事業内容

加木屋中ノ池駅の南改札口が令和 8 年 3 月に開業したため、駅前広場にバス停を設置するための準備として循環バス（らんらんバス） 富木島線及び加木屋線のダイヤ・ルート改正の検討を実施。

・実施スケジュール等

令和 7 年度 循環バス（らんらんバス）のダイヤ・ルート改正検討

令和 7 年 12 月 23 日 第 3 回地域公共交通会議にて協議

令和 8 年 2 月 16 日 第 4 回地域公共交通会議にて協議



※加木屋中ノ池駅南改札口周辺イメージパース

施策：待合環境等の整備

・実施事業

上屋、ベンチ等の整備により、快適に利用できる環境の促進

・事業内容

＜上屋・ベンチの設置＞

バス停：東海市消防署北出張所前（北行き）

設置場所：東海市消防署北出張所敷地内

供用開始：令和8年3月12日

規格：W4,125×L2,000×H2,600



＜ベンチの設置＞

バス停：水深〔荒尾線、富木島線〕 2基

アピタ荒尾店前〔名和線、富木島線〕 2基

若宮〔荒尾線〕 2基

北鹿持〔加木屋線〕 1基

加木屋南小学校前〔加木屋線〕 1基

中ノ池六丁目〔横須賀線〕 2基

計 10基

供用開始：令和8年3月24日

規格：ベンチW1,600×D362×H1,200

(座部までの高さ440)



基本方針2

地域特性に応じた移動ニーズを満たす公共交通サービスの提供

施策：移動需要に応じた交通サービスの利用促進

・実施事業

運転免許証自主返納者へのタクシー利用助成

・事業内容

運転免許証を有効期限内に自主返納した市民に対して、75歳未満の方には、無料で循環バス（らんらんバス）に乗車することができる特別乗車証を支給し、75歳以上の方には、タクシーチケット（2,000円分：400円券×5枚綴のもの）を支給する。

・実施スケジュール等

令和7年度

運転免許証自主返納人数 238人

特別乗車証支給人数 57枚

タクシーチケット支給人数 181人

タクシーチケット利用実績枚数 408枚

施策：新たな交通システム導入の検討

・実施事業

A I オンデマンド交通の実証実験

・事業内容

乗合型の公共交通サービスである（株）アイシンが提供する「チョイソコ」の実証実験を「東海市北部エリア（国道302号以北の名和町、南柴田町、浅山の一部）」で実施。

※利用状況は資料14のとおり

・実施スケジュール等

6月27日（金） 令和7年度第1回東海市地域公共交通会議
（実証実験の延長及び一部条件変更の決定）

8月25日（月） 令和7年度第2回東海市地域公共交通会議
（地域公共交通会議予算及び事業計画の変更）

9月29日（月） 地域説明会（千鳥健康交流の家、下名和公民館）

10月 3日（金） 地域説明会（緑陽コミュニティセンター）

10月14日（火） 地域説明会（上名和公民館）

10月1日～ 実証実験期間の延長及び運行時間の変更

【追加期間】 令和9年3月31日まで

【運行時間変更】 変更前 8:00～16:00
変更後 8:00～18:00

【予約時期変更】 変更前 30分前～2週間前
変更後 20分前～2週間前



基本方針3

地域全体で支える公共交通づくり

施策：公共交通教育及び利用促進活動の推進

・実施事業

バスの乗り方教室

・事業内容

マイカー社会の進展に伴い、バスの乗車経験がなく、乗り降りの仕方を知らない児童が増えている。そこで、公共交通であるバスに親しみ、バスへの理解と関心を高めるとともに、将来的な利用者につなげるため、小学2年生を対象としたバスの乗り方教室を令和6年度に引き続き実施した。

・実施時期等

- | | |
|-----------|--|
| 10月 1日（水） | 午前：緑陽小学校（2クラス、60名）、
午後：加木屋南小学校（4クラス、125名） |
| 15日（水） | 午前：加木屋小学校（4クラス、115名）
午後：船島小学校（2クラス、44名） |
| 11月19日（水） | 午前：大田小学校（3クラス、102名）
午後：渡内小学校（2クラス、70名） |



（バスの乗り方教室の様子（緑陽小学校））

・実施事業

のりもののカードの作成

・事業内容

循環バス（らんらんバス）に愛着を持ってもらうこと及びより多くの方に知ってもらうため、循環バス（らんらんバス）の「のりもののカード」を作成した。

- ・作成枚数：1，200枚
- ・バス乗り方教室に参加した児童全員に配布

配布枚数：560枚

- ・SNSを利用した配布イベントの開催

イベント期間中、対象SNSで循環バス（らんらんバス）について投稿した方に配布

実施期間：11月1日（土）～11月30日（日）

対象SNS：Instagram、Threads、X、Facebook

配布実績：9枚

- ・観光物産プラザ：8枚
- ・都市計画課窓口：1枚



（作成したのりもののカードの見本）



（イベント開催告知の市公式X投稿）

・実施事業

循環バス（らんらんバス）にWebチケットの導入

・事業内容

名古屋鉄道株式会社が提供しているアプリケーションの「CentX（セントエックス）」により提供されるWebチケットを活用し、デジタル媒体のチケットを販売。

・販売券種

- ・回数券（6回つづり、12回つづり）
- ・定期券（1箇月、2箇月、3箇月）
- ・一日乗車券

・支払方法

クレジットカード及びPayPay

・使用方法

回数券：運転士に確認したうえでスワイプにより使用

定期券及び一日乗車券：チケット画面を運転士に提示して使用

・実施時期等

令和7年（2025年）10月1日販売開始



(CentX アプリのチケット購入画面)

【販売実績】

	回数券 (6回)	回数券 (12回)	定期券 (1箇月)	定期券 (2箇月)	定期券 (3箇月)	一日 乗車券
10月	6	0	4	1	0	1
11月	7	1	6	0	0	1
12月	7	1	4	0	0	2
1月	2	2	4	1	1	1
2月	3	0	3	0	1	0
3月	1	1	6	1	1	3
合計	26	5	27	3	3	8

・実施事業

知多メディアスのテレビ番組「ハロー！とうかい」で循環バス（らんらんバス）についての特集番組を放送

・放送内容

- ・循環バス（らんらんバス）の概要についての説明
- ・バスの乗り方教室の様子及び児童インタビュー
- ・新たに導入されたWebチケットについて
- ・バスロケーションシステムの使用方法的説明

・放送日

11月15日～11月30日

